

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572108645号
法人名	バンドーケアポート株式会社
事業所名	グループホームバンドー北政の里
所在地	北秋田市下杉字上清水沢15-1 (電話) 0186-78-9226
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年12月12日

【情報提供票より】 (平成21年11月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 4 人 非常勤 4 人 常勤換算 5.4 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	一部2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低 77 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	疋田外科内科医院、清水歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「いつも笑顔でいきいき」という理念を掲げ、利用者が明るく生きがいを持って生活することを支援するため、職員心得を定めてケアにあたっている。
また、管理者が看護師である利点を生かし、通院時には常に付き添い、医師と直接面接することで病状の変化や服薬に関して指示を貰うなど、利用者の健康管理に細心の注意を払いながらケアにつなげている。
母体法人は県内外に10か所の事業所を運営しており、「自己点検シート」による業務の振り返りや「生活(暮らし)アセスメントシート」による利用者の状態把握など、独自の統一した様式を活用してサービスの向上に生かしている。
利用者の安全確保に努めながら、法人の方針に沿って玄関に施錠せずに開放し、週5日は夜間も夜勤者と宿直者の2名体制とするなど、事業所及び利用者の状態に応じて柔軟に支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	利用者の体力づくりを目的に歩行訓練を行い、利用者の意欲を引き出すための取り組みがみられるほか、地域との交流についても限られた環境の中で交流の機会づくりに努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	独自の「自己点検シート」を活用して日々の業務を振り返り、管理者が外部評価結果や職員の意見を聴きながら自己評価を行い、評価内容を職員間で共有してサービスに生かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議では行事などの状況や利用者の健康状態、生活状況のほか、評価結果を報告して意見交換しており、民生委員を通じて保育園との交流機会が増えるなど交流につながっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	事業所内に苦情箱を設置し、苦情相談対応をフローチャート化して迅速に対応する仕組みを整えているが、これまでに意見や苦情はなく、家族の面会時に話し合う時間を設けて意向の把握に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	近隣の高校寄宿舎や一軒の民家を事業所の行事時に招待したり、防災訓練への参加を呼びかけて協力を得ているほか、地元社協や保育園との交流も増えており、事業所近辺に民家が少なく、関係が作りにくい環境の中で努力している。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	バンドー介護サービスグループとして、合計10ヶ所あるGHで企業理念の共有化を図りながら、当GHは「いつも笑顔でいきいきと」を理念と掲げている			「いつも笑顔でいきいきと」という職員の意見を取り入れた独自の事業所理念を掲げ、利用者が明るく生きがいを持った生活支援に努めている。	○	管理者が交代して2年目を迎え、地域とのつながりを深めたいとの意欲があるため、地域密着型事業所として地域との関わりを理念に盛り込み、職員間で共有しながら今後の取り組みにつなげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	GH内3か所に「理念」を掲示し、管理者は理念の重要度を十分認識した中で、職員に対しても日々業務の中で「理念」を取り入れることに対する意識付けを心がけながら徹底を図っている。			理念を色紙で事業所内に掲示し、常に笑顔の心で自尊心を大切に、温かみのあるスキンシップで利用者に接するよう職員心得を定め、毎月カンファレンスや学習会で確認し合いながら支援にあたっている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進委員会のご参加者（入居者御家族・福祉課職員・民生委員・交番所長）との会議以外での交流（GH行事への参加を募り）・地元の「認知症」に関わるサークル活動グループの見学など積極的に受け入れ、理解に結びつけるための努力をしている。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	現在、周囲には民家数戸と地元高校の宿舎があるだけの中でも、行事参加依頼等をし協力を得られている。		来年開設予定の「北秋田市民病院」の影響で交通量も増し注意が必要になる反面、賑やかな街並みになる可能性が高い。更に状況を判断し御近所付き合いに尽力していきたい。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事を早期に把握し入居者様の体力的に支障のない行事には可能な限りの参画に努めている。又、市の広域センターとの「ケアネットワーク」を図るための会議などにも参加し情報交換などし交流を図っている。			地域の公園で開催されるイベントに参加したり、保育園児との交流やボランティア受け入れなど、近隣に民家が少ない環境の中で努力している。 また、敬老会や夏祭りなど事業所の行事には近隣にも参加を呼びかけ、入寮している高校生を招待するなど交流を図っている。		
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が北秋田市の「地域ケアネットワーク」事業への参加で得た情報を職員に伝達し、話題の源にしている。 又、行政や社協からなどの利用相談を発端に情報交換を積極的に行っている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を重視し自己評価及び外部評価で得た内容から課題を明らかにし、その改善に努めている。 又、ケアサービスや他業務内容などにも5段階で自己評価できる独自の様式を作成し、活用しながら質の向上を目指しつつ、自己啓発につながるようにしている。			法人独自の「自己点検シート」を活用し、職員が日々の業務を振り返る機会を設けており、管理者が外部評価結果や職員の意見を聴きながら自己評価をまとめ、評価内容を職員間で共有している。	○	職員が自己評価を意識しながら取り組んでいるが、意義や目的をさらに浸透させるため、職員一人ひとりが自己評価に取り組みながら項目の理解を深めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お一人でも多くのご参加がいただけるように、日程の調整に努力し3ヶ月に一回の割合で開催している。 当日は昼食に「検食」を準備し、御都合のつく方には食していただき評価をお願いしている。 会議の議事録は協議事項をまとめ御家族や委員に配布し共通認識を図っている。			会議には地域の警察が参画し、行事などの詳細や利用者の健康状態、生活状況などを報告し、会議当日に試食も行って事業所を理解を深めているほか、評価結果についても報告して意見交換している。	○	外部評価結果で明らかになった課題等を提起し、運営推進会議で意見や助言を得ながら改善計画を作成するなど、具体的な取り組みに向けて会議の機能を効果的に活用してほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が北秋田市の「地域ケアネットワーク」事業への参加に心がけ、他秋田県看護協会行事を通して医療関係との情報交換にも努めている。 更に、行政や社協からなどの利用相談を機会に情報交換を積極的に行っている。			地域包括支援センター主催の地域ケアネットワーク懇談会に参加して関係機関と情報交換しており、地元社協の依頼で見学を受け入れるなど連携している。 また、建物が行政所有のため、担当職員が定期的に事業所を訪問して設備や管理面に対応している。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるような支援している	「権利擁護」に関わる研修には管理者・職員共々積極的に参加し、施設内でのカンファレンスや学習会で内容の確認などに心がけている。 又、「成年後見制度」に関しても研修を受けた職員より伝達学習を受けるなど知識の向上に努めている					
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	{虐待}に関わる研修への参加、及びカンファレンスや学習会で内容共有に努めている。 「虐待」に対する正しい知識の向上のため、日常の業務の中でも「場面にあった時」など職員同士の意見交換に心がけている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本部の入居説明担当もしくは管理者が、入居までに数回の面談や連絡を取り合いながらキッチンとご理解いただいた内容で実施できている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情箱の設置をし苦情相談を受ける体制を整えている。 月一回のカンファレンスで、それぞれ受け持ち介護者中心に個人のモニタリングをしており、その際の情報も貴重に扱っている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に一回の運営推進会議の報告・毎月の収支決算報告書に連絡事や御様子の報告の記載・大きな行事後は全体へのお知らせ、御家族へお写真入りの年賀状など。 又、管理者への直接連絡も可能にしている。			2～3か月毎に行事などの連絡事項を知らせ、預かり金の金銭報告書のお知らせ欄を設けて生活状況を報告している。 また、運営推進会議の会議録も報告し、利用者の写真なども添えて生活の様子を伝え、家族の面会時にも情報提供している。	○	利用者の状況を複数回に亘って報告しているが、家族が把握しやすいよう広報や「たより」という形で定期的にまとめて報告する方法も考えられるため、家族の意向を確認しながら運営推進会議でも提起するなど、より最善の情報提供方法を検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情箱の設置をし苦情相談を受ける体制を整えている。 面会時には、御本人と面会后必ず御家族とだけの時間をとるように努め、お話を伺うようにしている。			事業所内に苦情箱を設置し、苦情相談対応をフローチャート化して迅速に対応する仕組みを整えている。 また、家族の面会時には管理者が中心となって話し合う時間を設け、意向の把握に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のカンファレンス・二カ月に一回のホーム内学習会で業務検討・その他として屈託ない意見交換ができるようにしており、その際に検討された事については即対応も可能にしている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて人材・人数の検討は常に可能にしている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	楽しい職場作り・生き活きた環境作りに職員皆で向かうよう心がけることで、職員の離職・移動は最小限に抑えている。 又、入居者様に受け持ち介護者をつけることで、その入居者様の内容の濃い情報を基に全員で関わっていることより御本人へのダメージは防いでいる。			系列事業所との職員異動は行わない方針で、利用者一人ひとりの担当制により信頼関係の構築に努め、地元の職員を採用することで利用者との馴染みの関係をつくりやすいよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象に、受講希望の研修がある場合は運営者に申し出をする過程を踏んでいる。 又、ホーム内学習会として、2～3ヶ月に一回管理者が講師となったり、職員が受講してきた研修の伝達学習など継続している。 又、「救命救急」は講師を招き全員が受講した。			認知症の理解や介護、各種制度などテーマを分け、職員の経験に応じて目標を設定するなど、法人としての研修方針を明確にした研修計画を作成している。 また、職員の希望を確認しながら外部研修を受講し、事業所内の伝達研修で成果を共有している。	○	職員一人ひとりの将来像や目標を設定し、希望や自己点検結果なども踏まえて事業所内外の研修計画に反映させるなど、段階的にスキルアップできる仕組みづくりを検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は系列の事業所と月一回のリーダー会議他交流する機会を積極的に持ち、意見交換に努めている。 又、研修や他会議で面識を持った同業者（福祉・介護関係者）との積極的な交流でお互い施設の見学や情報交換など行っている。			全国の連絡協議会に加入して情報収集を行っているほか、管理者が個別に福祉関係機関との情報交流に努めている。 また、県内外に系列事業所が10か所あるため、毎月のリーダー会議で情報やサービス内容について共有している。	○	圏域の組織化が進んでおらず、職員同士の交流機会がないため、行政や他事業所とも連携しながら協議会の立ち上げに向けて積極的に働きかけてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者も定期的に事業所を訪れ管理者や他職員との聞き取りの機会を設けている。 業務的な問題などは、管理者が解決できるように取り組み、職員が相談しやすい環境作り・雰囲気作りに心がけている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	社会保険などへの加入や、賃金ベースアップなどを導入している。運営者も事業所に足を運ぶこともあり、管理者や職員それぞれの業務に対する姿勢や熱意など伺い知るようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者の事前訪問（数回）を行い、センター方式のアセスメント方式を活用し情報収集に努め、又希望に添いGHの見学や説明など常時行えるように準備している。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅支援事業所からの情報を基に御家族との面談（希望に合わせて何回でも）を行い、又、管理者に直接連絡を入れるようにするなどし、随時対応できるようにしている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族との面談等で知り得たすべての情報をデータベースに記録し、スタッフ皆で情報を共有し分析検討するようにしている。GHだけの対応が困難と予測される場合は他サービスや他事業所の紹介などケースに合わせて対応している。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	知り得たすべての情報を基に、とりあえずご自分の意のままに行動していただく。職員は「安全・安心」を常に念頭に置き、見守りから入るようにし、その方の行動パターンを徐々に把握していく。			法人担当者が窓口となり、利用希望時には事前に事業所を見学してもらい、雰囲気や生活の様子の把握に努めている。 また、管理者が自宅訪問などで本人の意向を把握し、情報収集しながら早く馴染めるよう環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の場を大切にし、特に「料理・畑作り・裁縫・昔話」など得意とする分野を見極め話題に取り込むようにしている。 又、実際「畑作り・草取り・洗たく干し・食器拭きなど」一緒に行うことで他入居者様含むスタッフとの絆作りにも効果があると思う。			農業を営んでいた方が多く、畑仕事や草取り、収穫など一連の流れを共に行い、知識や手法を教わっている。 また、調理や裁縫の手法、物事の考え方など利用者の経験や昔話から職員が影響を受けている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	①毎月の「お過ごし方」の連絡及び写真の送付 ②行事への参加募集（年祝い・誕生日・花見・夏祭りなど） ③運営推進委員会の議事録配布 等連絡を密にし、御家族の安心感を得ると共に関心を継続していただけるようにしている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記の連絡を継続することで、御本人と御家族の話題が共通となり、面会時の話題の手助けになっている。 又、御家族にもGH自体を近い存在と感じていただけていると感じている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の自由・常時面会可能・連絡（電話）依頼時対応可能など。 外出の自由・御家族の許可があれば外出は常に可能とし、希望があればスタッフ同伴で出かけることもある。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの個性を見極め、又、その時々々の気分に合わせて無理なく共同作業・レクリエーションへの参加を促す。 又、特別気の合う方々の「同伴行動」には可能な限り見守りながら自由にさせていただいている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に移動された方の状況伺いについての連絡や他入居者様同伴で面会し、御家族への年賀状のやり取りなど適宜行っている。 退居された御家族からの介護相談などへも可能な限り対応している。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴や家族の情報などから興味のある事や思いを抽出し、御希望を出される方には可能な限り努力する姿勢を示している。 又、意思表示のされない方にはその日の状況に合わせて作業を促したり、退屈しないように「週刊誌・アルバム・新聞・音楽・テレビ」などを提供している。				センター方式のアセスメントや「生活（暮らし）アセスメントシート」により利用者の生活状況を把握し、利用者の観察や会話から思いを感じ取るよう心がけている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から居宅支援事業所との連絡を密にはかり御本人の情報を得ている。 又、御本人の行動に注目しながら、御家族や居宅支援事業所への確認などに努めている。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンス時に受け持ちスタッフが中心となりケースカンファレンスを定着させている。 その際、アセスメント記録の活用・皆で情報提供を仕合い個人を更に理解するように努めている。					
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシート一部及び施設独自のADL評価表を活用し、毎月のカンファレンスで検討し計画に取り入れている。 又、個人情報と健康管理別に個人ファイル化して綴り常に職員や希望される御家族のかたへも見れるようにしている。				センター方式のアセスメントにより利用者及び家族の情報収集と意向の把握に努め、カンファレンスにおいて検討事項を提示のうえ、職員の意見を参考にしながら介護計画を作成している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスでの検討が中心となり計画の見直しがされるが、随時計画変更の余地はあり最終は内容に関する確認を御家族にいただき変更・修正している。			2～3か月毎のモニタリングを行い、半年毎の定期的な見直しにつなげている。 また、「生活（暮らし）アセスメントシート」により利用者の生活状況や状態変化を把握し、カンファレンスで検討のうえ随時に見直している。	○	前回評価結果で課題としていた短期目標の設定について、利用者一人ひとりの状況に合った具体的に取り組みやすい目標とし、段階的に達成できるよう工夫してほしい。
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートに各勤務ごとに分担した「ケアや状態」の記録が満載されており、更に「状態記録」として健康面・認知症症状などの記録を毎日行っている。スタッフの記録の充実を図ることから生まれる、意識の向上と気づきは大きく、大切に計画に反映されている。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急な場合や施設での生活継続が困難になった場合など、一時的でも利用できる系列の事業所の存在は大きい。 又、看護師の確保により24時間体制で医療連携を保っている。			家族に代わっての受診介助や薬の受け取りなど、常勤看護師を確保して医療連携体制を充実させている。 また、系列有料老人ホームや系列事業所と連携し、一時的な利用などで柔軟な対応を可能にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	①ボランティア：見学の受け入れ・行事参加 ②警察：運営推進委員会への出席及び行事参加 ③消防：防火訓練及び定期的訪問を受けている。 ④医療機関：管理者が県看護協会役員・理事など兼務していることから医療機関との連絡等取りやすくなっている 等					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	交流はあるが活動には繋がっていない。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡できる状況にはなっているが、実際問題に対応するほどのことは経験なかった。ただ、地域ネットワークとして、地域包括支援センターとの会議や他話し合える機会はある。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様毎に毎月受診計画を立て、受診しやすく計画的な環境を整え、受診時は看護師の付き添いを徹底している。（代理受診も可能にしている） 又、看護師の確保により医療面では適切な判断と対応が可能となり、健康面に関する記録の徹底も図っている。			基本的には利用者のかかりつけ医への受診を優先し、必要に応じて協力医など変更している。 また、通院時には看護師が付き添い、受診の経緯や結果を看護処置計画書に記録してケアに生かしている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣にある専門医師との連携が保たれており、治療・検査は充実している。 又、当医師から「認知症」に関わる講義なども受講できる環境にもある。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域医療施設に長らく（36年）就業していた看護師が管理者として常勤していることより、施設内での健康管理は元より医療施設や福祉関係者とのつながりや人脈があり十分に活用されている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	長期入院による「安静」が引き起こすADLの低下は否めず、入院と共に医師理解を仰ぎ一日でも早い退院を依頼している。 又、退院後の管理については、事前にスタッフと介護計画の修正に努め、特に観察事項・注意事項などの学習を行っている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した場合や看取りに関する指針を定め、更に「看取り」を望まれる場合は嘱託医師と綿密に相談し、連携及び相談できるように体制を整えている。			重度化した場合や看取りに関する指針を定め、利用時に本人及び家族の意向を確認し、常勤看護師の配置やかかりつけ医の連携・協力などにより体制を整えている。		
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	臨床経験の豊富な常勤の看護師の指導のもと、施設でできる「無理なく可能なところ」までを目指して対応できるように、専門的知識の向上に向け学習会やその都度の情報交換を行っている。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先に提供する「サマリー」の内容充実の心がけている。 又、住み替え先への連絡を密にしながら、御家族への情報提供・住み替え先への見学や話し合いのセッティングの中心となり不安の解消に努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴れ合いになり、失礼な言葉かけにならないよう日々の業務の中で自己チェックなどした経緯から、現在も継続して皆で気をつけている。 又、個人ファイルの管理は厳重にし、個人情報保護に関する取り扱いにも留意している。			利用者への言葉遣いや接遇に関しては勉強会で徹底し、大声もなく家族のように接することに細心の注意を払っている。 また、個人記録は台所の下に施錠のうえ保管し、個人情報の取り扱いについても同意を得ている。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の理解度に合わせた会話に心がけ、常に本人の会話中心のやり取りをしている。 否定的なことは行わず、思いを聞き出せるように努めながら、人間関係の構築を大切に心がけている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課はなく、食事やティータイム・おやつなどもお声は掛けるが本人次第で過ごしていただいている。 又、作業や手伝い、行事参加も説明を十分行うことで不安解消から努め無理なく行ってもらっている。			「生活（暮らし）アセスメントシート」で利用者の一日の生活状況を把握し、気分や体調に合わせて体操やビデオ鑑賞、畑づくりなど個々の生活ペースを優先している。 また、居室に遺影を持ち込み、毎日水を供えて合掌する方もいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在は希望がないため、訪問理容師・美容師（ボランティア）に定期的実施して頂いている。 又、希望で顔のケア等の用品は本人と一緒に買いに出かけるなど行っている。 入浴日の更衣についても、本人に選んでいただき決めている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全面から調理に参加できる方はお一人しかいないが、スタッフ管理のもと参加していただいている。又、食器の片付けには競って候補者がおり交互に行っていたりしている。 イベント日のメニューやお誕生日の主役・季節折々の初物などは希望を伺っている。			利用者の状態に合わせて盛り付けや食事量を調整し、週2回は「稲庭うどん」にしたり、外食に出かけるなど嗜好に合わせて食事を楽しめるよう配慮している。 また、職員は弁当を持参し、会話しながら偏食がないか見守り、必要な方にはさり気なく支援している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康面・生活面で問題ない限りは希望の食べ物を準備している。 タバコは入居時のお願いとして健康面と火災防止の面から、入居中の喫煙不可を了解して頂いている。 近所の公園レストランにて皆で出かけ外食する機会は時々作っており、他、スタッフの協力を得外食の機会はつくるようにしている。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄の失敗については一番の「失意」になっている事を重んじ、他入居者様に知られることのないように配慮している。 便通の管理は、排便回数と内服の一覧表を作り対応の参考にしており、排尿に関しても必要に応じ本人にだけ分かるように誘導したり配慮している。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日・入浴日以外に足浴日・陰部浴日を決め行っているが、本人の希望に合わせてのケアも柔軟して回数を増やしている。 入浴を拒まれる場合は、他部分ケアで清潔保持に努めている。			週2回を入浴日としているが、利用者の希望に応じた入浴が可能で、受診日の前日の入浴にも応じている。 また、入浴を拒む方や夏場の畑作業後、失禁後などはシャワー浴や清拭などで柔軟に対応している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝・自室で過ごす時間・就寝時間など本人に合わせてできるようにしている。 又、夜間せん妄や不眠等伺われるときは専属の専門医師に即相談し、必要時内服のコントロールなど行っていたりしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援									
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の力量を見極め「調理、後片付け・モップ掛け・洗たく干し、たたみ・畑作り・カレンダー捲り・草取り・庭掃除・落ち葉拾い等」皆で分担して行っている。喜ばれることもあり、通院やドライブなど機会があるたびに外出を心がけている。				山菜の皮むきや干柿づくり、畑づくりや収穫など利用者の状態に合わせて無理なく行っている。また、植物を育てたり、犬の世話をする方、塗り絵やカラオケ、ビデオ鑑賞など利用者の趣味活動も支援している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができるような方は検討する有余があるが、現在はこちらでお預かりしている。ただ御希望の物があれば、御家族からお預かりしているお金を使い購入している。御本人をお連れし買い物をする際は御本人にお金を渡し、支払いをしていただくなどしている。						
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩は常時希望があれば行っており、作業希望（畑仕事・草取り）があれば体調やお天気に合わせ対応している。又、屋外行事の推進に努め、日頃、通院付き添いや買い物・ドライブなどもお誘いしながら実施している。				前回評価で課題としていたが、地域のイベントに出かけたり、事業所周辺の散歩、買い物などのほか、季節のドライブや外食などで外出の機会づくりに努めている。また、体力づくりを目標に園庭で歩行訓練を行うなど、意欲を引き出すよう取り組んでいる。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事（花見・夏祭り・紅葉祭り・お誕生日の外出・イベント参加など）を立て、全員参加が可能な計画の中、更に内容の充実に努めている。行事には御家族の参加を募ったり、外出行事は全スタッフ及び関係者全員の協力を得ている。						
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望に合わせた通信援助は行っている。						
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の制限は無く、訪問時は自室でセッティングしお茶・お菓子などのお持て成しも行っている。必要に合わせ管理者が同伴したり、お帰りの際のお見送りや御希望に合わせ施設内見学など来訪中の心遣いを行っている。						
(4) 安心と安全を支える支援									
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での学習会・施設外での研修の伝達講習などを心がけ知識の向上に努めている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関に鍵はかけずセンサーの取り付けにより利用者様の外出を把握するようにしている。外出目的の時は安全確保に努め付き添っている。地元警察や近隣の民家や高校宿舍の関係者に依頼し見守りなど協力が得られている。			玄関には施錠せず、センサーにより利用者の出入りを把握し、夜間は週5日宿直者を配置して夜勤者との2人体制で利用者の安全対策に努めている。 また、地域内の危険箇所を把握し、近隣住民による見守りや警察の巡回もあり、地域の協力が得られている。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中：出勤者全員が、常に所在の確認に心がけ、長く自室で過ごされている時などは声掛けをするなど安全の確認に努めている。 夜間：定期的な巡回・離床時即対応できるように夜勤者の待機場所を全室見渡せる場所に設定するなど皆で心がけている。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤、刃物等は一律容易に手の届かない様な対策を取っているが、利用者様の判断能力を見極め御希望に合わせて対応している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	地元消防署との連携で「救急救命講座」を関係者全員で受講し知識と実践に役立てている。又、各勤の引き継ぎやカンファレンスでの受け持ちからの情報・依頼を記録に残し実践でのスタッフの援助知識として活用している。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	地元消防署との連携で「救急救命講座」を関係者全員で受講し知識と実践に役立てている。又、常勤の看護師作成の看護計画も活用し、自らケアに参加することで、他スタッフの知識の向上と実践に役立てている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画を作成し、消防署の指導を受けながら避難訓練を行っており、日頃も各自が「避難過程」を実践し月2回は自己評価し熟知できるようにしている。又、近隣の民家・住人とは日頃から接触を持ち、緊急時の協力を依頼している。			防災計画に基づいて年2回の避難訓練を実施しているほか、自主訓練も実施しており、近隣住民が訓練に参加している。 また、寄宿舍の協力も得ており、非常食や水なども備蓄して災害時に備えている。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月のカンファレンス及び日頃の情報より管理者が判断し、通信メモや電話・面会時の面談などを利用し情報の提供や施設側の見解をお話しし御家族の意見をいただき実践につなげている。					
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴日のバイタルサインチェックの徹底をし、更に毎日の健康状態記録をしながら日頃の体調を管理している。 管理者（看護師）不在の際でも、体調に異変を感じた時はマニュアルに沿って対応し、必要に合わせ即連絡をつけ指示を仰ぐように徹底している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は、「個人の健康状態」に個人別にファイルされており、常に参考にできるようにしている。 自覚・他覚症状含め、服薬中の内容に関係していないか疑われる場合は、即かかりつけ医師に相談できるようにしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	宿便傾向にあられる方の対応として ・ティータイムの牛乳の飲用 ・排便回数のチェックと記録 ・水分・野菜・果物摂取を促す ・医師との相談で適宜使用の緩下剤の処方 ・食後やおやつ後の散歩の勧め等を行っている					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯を外し、うがいや義歯清掃を心けており、更に就寝時は本人が外すのを拒まない限り「義歯洗浄剤」に入れ管理している。 嘱託の歯科医師にも必要時は即対応していただけるようにしている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設に居る栄養士より、日常的にアドバイスをもらいメニューの参考にしたり、資料を元に学習会に「高齢者の食事及び管理」を取り入れたりしている。 食事摂取量及び水分飲用量の記録も徹底している。月一回の体重測定で増減の管理もしている。			栄養士資格のある職員がいるため、カロリー計算や献立作成など栄養バランスが偏らないよう配慮している。 また、毎月1回体重測定を行い状態を確認し、栄養摂取や食事・水分量を把握しており、主食量を調整したり補食などで栄養管理に努めている。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策としては広域支援センターからの情報・及び法人本部からの資料などを基に施設内で学習し実践に繋げている。 感染症の知識においては管理者（看護師）が日頃の業務に取り入れ、常に情報を提示している。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週3回に分け、施設関係者がメニューに合わせた食材の買い出しに出かけ新鮮な食材提供をしている。 又、厨房の衛生管理として・まな板の毎日一回のハイター消毒の徹底・塩素による毎回の食器の消毒と周囲の清掃などを行っている。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には階段の他にスロープがあり足腰の不自由な方でも出入りが容易になっている。 玄関には常に鑑賞できるように「観葉植物や花」等を置き、夏場は広い施設前の空間をフルに活用し椅子テーブルを置いてくつろぎの場に使ったり、自然や広大な土地を活用し馴染みの場作りをしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、床下に「備長炭」を敷き詰めて消臭効果を期待した作りであり、他室以外は事務所も含め自由に出入りできるようにしている。更に、季節を感じれるように季節折々の植物や観葉植物を這わせ緑を強調したり、イベントにあった置物や貼り物にも心がけている。又、皆さんが一番注目される場所の窓は天気に限らず外の景色や様子が見れるようにしている。			玄関や廊下は広く開放感があり、備長炭を敷き詰めているため臭いもなく、換気も行き届いている。 また、観葉植物や行事写真などの装飾により和やかな雰囲気をつくり、子犬を世話をすることで癒しの効果も取り入れている。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの活用・廊下での談笑場所として椅子を設置・玄関にも座ってくつろげる椅子が準備されている。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の希望されるものは入居後でもスペースに合わせ持ち込み可能にしている。又、テレビ等も希望に合わせてお持ちいただけるようにアンテナラインは各室引いている。御主人の遺影や位牌なども持参し、毎日水を変え合挙している方もいる。			全体的にシンプルではあるが、遺影や花、孫の晴れ着姿を写真で飾ったり、テレビを持ち込むなど利用者の個性がみられる。 また、居室の入口には利用者の写真や花を貼るなど、わかりやすいよう工夫している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	加湿器の使用は常時可能にし、温湿度計で「生活管理」に努めている。又、どの窓も網戸使用をし安全の中で自由に開閉できるようになっている。備長炭を敷き詰めた床には通気口もあり、更に、換気扇も各室・各場所に設置している。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドやトイレ・浴槽前には立ち上がりを容易にする為バーを取り付け、廊下の手すりでも歩行の安全を図っている。又、手すりを使い屈伸運動する方もおり、運動の役にたっている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	衣類の管理や排泄の失敗に関わる工夫など、本人の好みや希望を取り入れ行っている。作業に関しても、好みのやり方を見守るようにしている。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関には常に鑑賞できるように「観葉植物や花」等を置き、夏場は広い施設前の空間をフルに活用し椅子テーブルを置いてくつろぎの場に使ったり、自然や広大な土地を活用し馴染みの場作りに努力している。畑作りや花壇の世話も行えるように段取りしている。					

※ は、重点項目。

項 目		自己評価	
		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)